

金剛寺(真言宗)

平安時代後期の933(承平3)年慈海和尚が清泰院という庵を管んだのが始まり。1312(正和元)年大内重弘が弘法大師遺跡を再興し七堂伽藍及び十二坊を造営した。現在の寺名にはなしたのは1695(元禄8)年。3月21日の縁日は有名。桜やモミジで美しい寺。



宝篋印塔(市文化財)

清泰院の遺構で、1334(建武元年)建立。県内の宝篋印塔のうち最古のもの。

金剛一光三尊立像(市文化財)

金剛寺の本尊として善光寺よりご分身を得たものといわれている。制作は室町時代。善光寺本尊とあわせて日本三体の聖仏と伝えられている。1875(明治8)年以降開扉されていない秘仏。

瑞相寺(浄土宗)

1516(永正13)年、法善祐面が宇治の平等院から西下して開山したといわれている。松尾芭蕉の流れてく柳井正風美濃派俳諧の基礎をつくった漸軒東明の句碑など、境内には多数の句碑がある。また、江戸時代柳井の発展に尽力した豪商や先覚者の墓碑が多数ある。



閻魔大王像

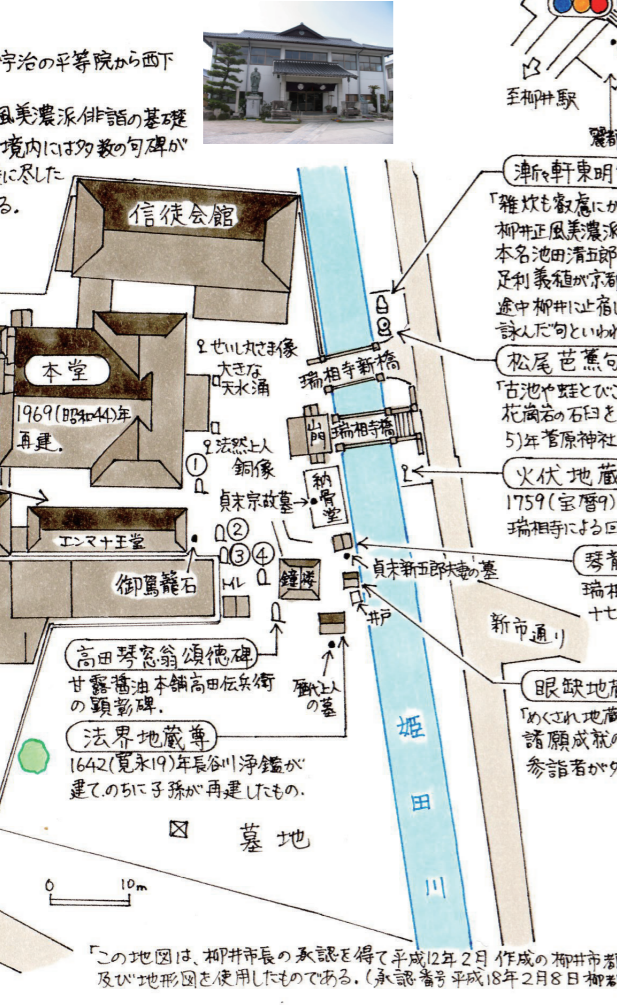
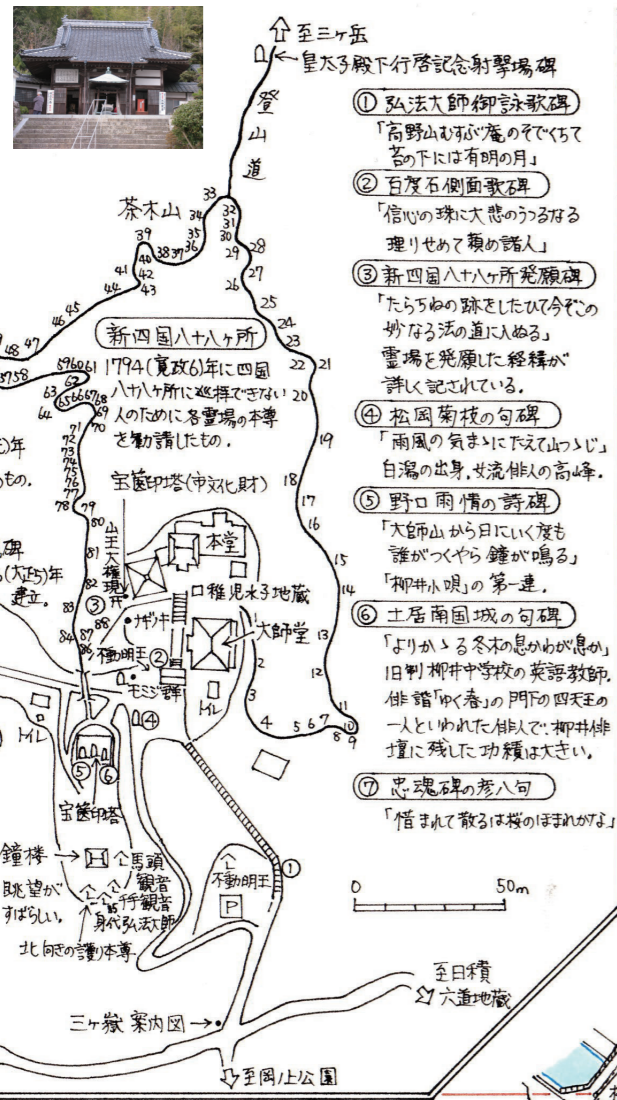
1680(延宝8)年建立といわれる。大正末期頃の台風で土手崩れが破壊したが、2005(平成17)年修理復元された。

釈迦堂

1679(延宝7)年建立。江戸時代の柳井三大祭の中心「新柳」の中心にまつわる釈迦三尊像がある。

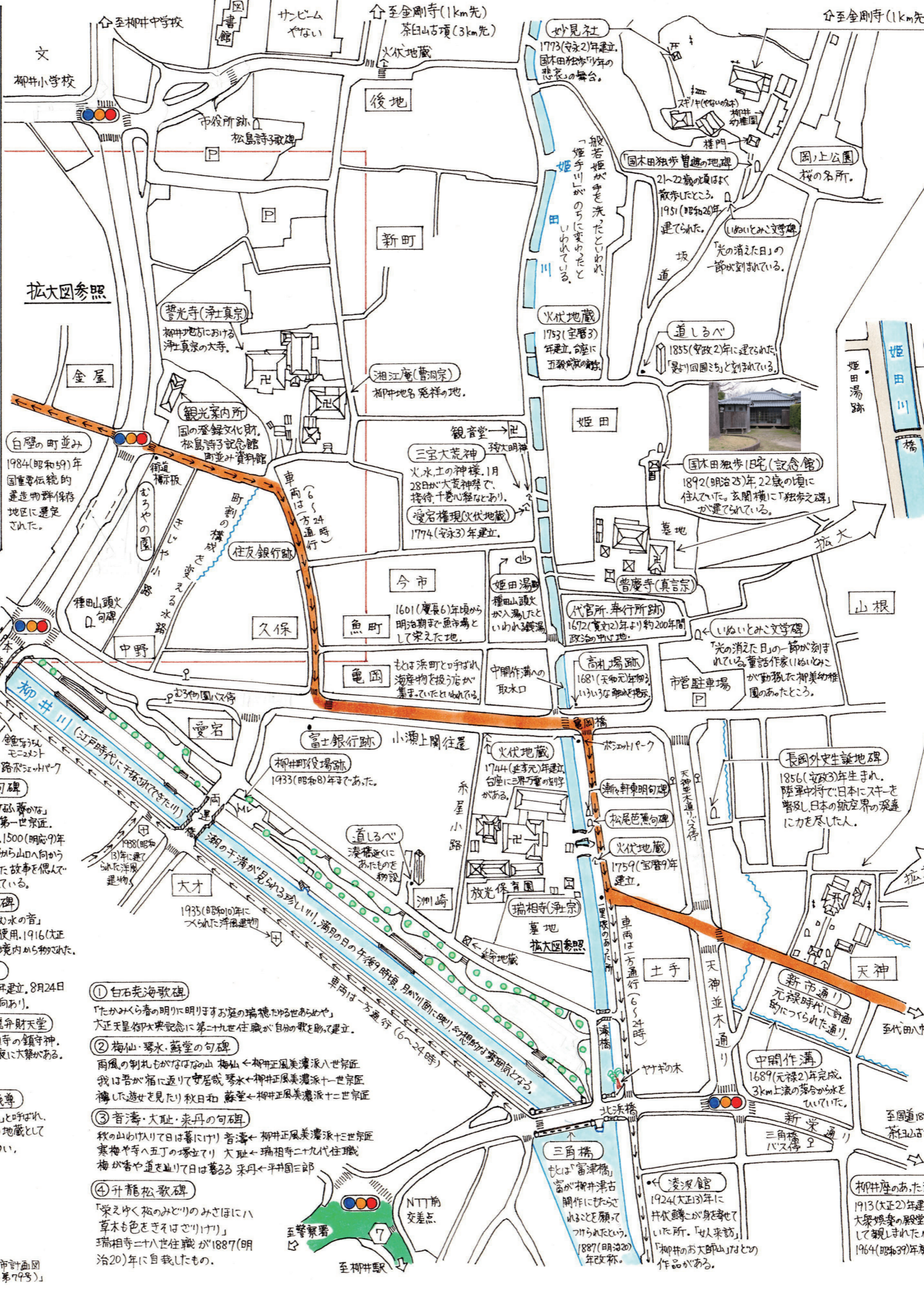
延命地蔵

1759(宝暦9)年につられた木造地蔵尊をまつ。



この地図は、柳井市長の承認を得て平成12年2月作成の柳井市都市計画図及び地形図を使用したものである。(承認番号平成18年2月8日柳第749号)

- ① 弘法大師御詠歌碑
「高野山むすか庵のそでくつて 苔の下には有明の月」
- ② 百段石側面歌碑
「信心の珠に大悲のつるなる 理りせめて頼の諸人」
- ③ 新四国八十八ヶ所発願碑
「たらちねの跡をたひて今代の 妙なる法道に人ぬる」
雷鳴と発願した経緯が詳しく記されている。
- ④ 松岡菊枝の句碑
「雨風の気まに下えて山つじ 白濁の出身、女流俳人の高峰」
- ⑤ 野口雨情の詩碑
「大内山から日にいく度も 誰がつやら鐘が鳴る」
「柳井小唄」の第一連。
- ⑥ 土居南国城の句碑
「よりかざる冬の息かめおの 旧制柳井中学校の英語教師、俳諧「ゆき春」の門下の四天王の一人といわれた俳人、柳井俳壇に残した功績は大きい。
- ⑦ 忠魂碑の考へ句
「惜まれて散るは桜のほまれかな」



光台寺(黄檗宗)
鶴州浄玄が1764(宝暦14)年開山したと伝る。構門は中国明朝様式と模したもので、1869(明治2)年再建。構門の下で手をたたくと7ツ7ツと反響するところから、「わんわん寺」と呼ばれている。

普慶寺(真言宗)
831(天長8)年、弘法大師が真言開宗のためにこの地にたられ、観音平(現稱極山)に開山といわれる。1550(天文19)年現在地に初る。旧柳井町内で最古の寺。

愛染堂
愛染明玉は1734(享保19)年開帳される。宝篋印塔と願札あり。
山門前の石垣
1550(天文19)年の柳井の当時のものといわれる。
本堂
本尊は千手観音。33年に1回開帳になる秘仏で、市文化財に指定されている。
墓地
不肖大明神
本尊は千手観音。33年に1回開帳になる秘仏で、市文化財に指定されている。
宝篋印塔
1550(天文19)年の柳井の当時のものといわれる。
日曜地蔵尊
盗難除け火難除け、身体健全(特に足腰)に功徳があるとされる。
雨月庵破産の墓
柳井正風美濃派第二世宗匠、俳諧にも茶道にも通じ、多くの子弟の指導にあたり。

菅原神社(柳井天満宮)
景下三大天神の一つ。1689(元禄2)年、貞末宗故大夫の天満宮へ参詣した時雇っていた木履の産にまじった菅公の像を持ち帰ったのが始まり。4月25日に近江国に天神祭、7月27-28日に住吉祭がある。

退筆塚
1861(文元)年に書道塾「沈流社」の社主と門人に建てられた。天神祭前日に筆塚祭が行われている。
リテツ群(市天然記念物)
1793(寛政5)年、境内美しのため植栽された。
野口雨情詩碑
「柳井小唄」の第三連。
松尾芭蕉句碑(柳の塚)
「八八閑空で雨降る柳哉」
1841(天保3)年建立。
「杖突て老木の芽張柳かな」
柳の塚を詠じたものと思われる。

柳井お宝マップ

柳井地区編

制作 豊笑家倶楽部 2006.2

- ① 白石翁海歌碑
「たかみくら春の明り明りお春の瑞穂はるせらわや」
大正天皇御大典記念に第二十九世住職が自らの歌を詠じて建立。
- ② 梅仙・琴水・蘇堂の句碑
雨風の割れもがほほほ山 梅仙 ←柳井正風美濃派八世宗匠
我は吾が宿に返りて安居哉 琴水 ←柳井正風美濃派一七世宗匠
梅は遊女と見た 秋日和 蘇堂 ←柳井正風美濃派十二世宗匠
- ③ 普濟・大社・来丹の句碑
秋の山わたりて日は暮にけり 普濟 ←柳井正風美濃派十三世宗匠
寒梅や等へ五丁の場立アリ 大社 ←瑞相寺二十九代住職
梅が香や道を通りて日は暮る 来丹 ←平井国三郎
- ④ 升龍松歌碑
「棠えゆく松のみどりのみさほにハ 草木も色とさそはざりけり」
瑞相寺二十八世住職が1887(明治20)年に自叙したもの。

2020.5 修正